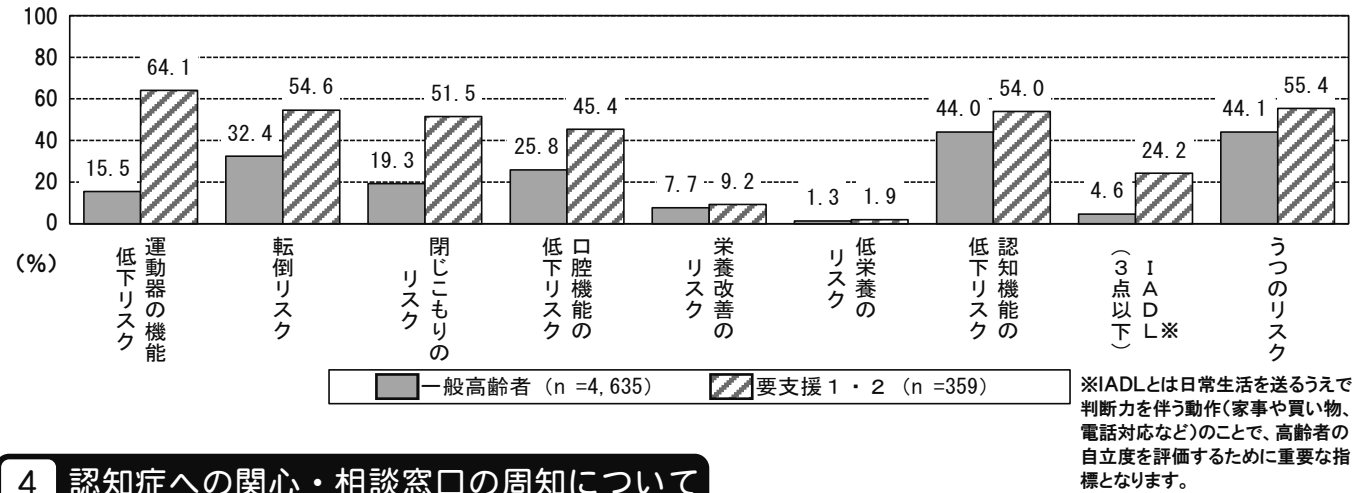


3 各種リスク判定について

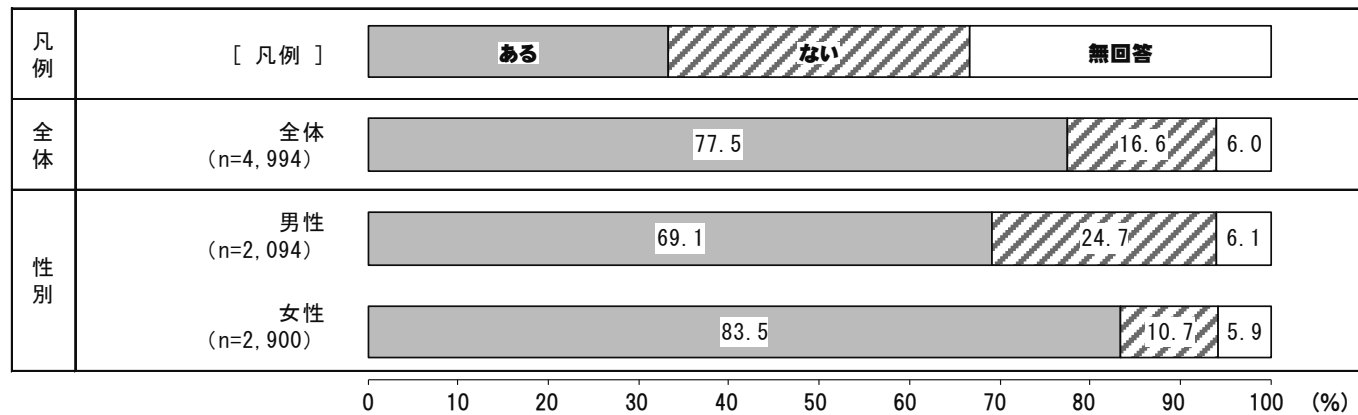
調査項目の回答内容より各種リスク判定を行いました。

一般高齢者(要介護認定を受けていない方)と要支援1・2を比較すると、いずれのリスクも要支援1・2の方が高くなっており、特に運動器(骨や筋肉、神経など、身体の動きを担当する組織や器官)の機能低下リスクでは48.6%と大きく差が開いています。



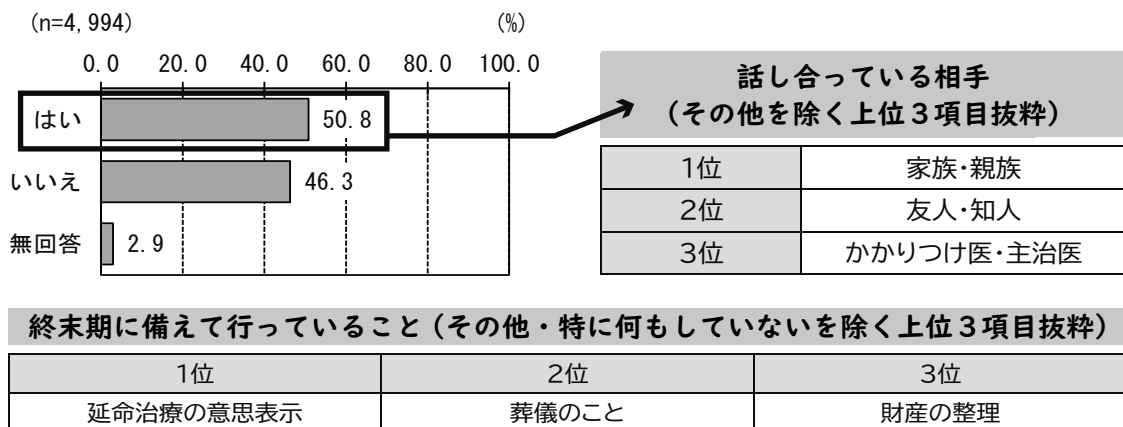
4 認知症への関心・相談窓口の周知について

認知症について関心がある方は77.5%となっており、性別で比較すると、男性より女性で関心が高く、14.4%の差があります。



5 終末期への備えについて

自身の判断力がなくなったり、終末期が近づいたことについて、誰かと話し合ったり、伝えたりしている方は50.8%となっています。話し合っている相手は「家族・親族」が最も多く、95.3%と大半を占めています。また、終末期に備えて行っていることは、「延命治療の意思表示」が最も多く、次いで、「葬儀のこと」、「財産の整理」が多くなっています。



● 調査概要

香美市では令和5年度に、高齢者福祉の一層の充実と介護保険制度の円滑な実施に向け、高齢者福祉計画および介護保険事業計画の見直しを行います。本調査は、高齢者の状態や自立した生活を送るうえでの課題、今後の意向などをより的確に把握するために実施しました。

本調査の詳しい結果は、香美市ホームページにも掲載しています。

【問い合わせ先】 高齢介護課地域包括支援班 ☎ 53-3127

対象者	令和4年10月1日時点で香美市内にお住まいの65歳以上の方(要介護1~5の方を除く)		
実施期間	令和4年12月5日 ~ 令和4年12月30日		
実施方法	郵送配布、郵送回収		
配布数	8,298 件	有効回答数	4,994 件
回収数	5,096 件	有効回答率	60.2%

※ 締切以降の返送分、本人が入院・入所中などの理由により回答ができないと記載があったもの、全問無回答などの調査票は有効回答に含まれていません。

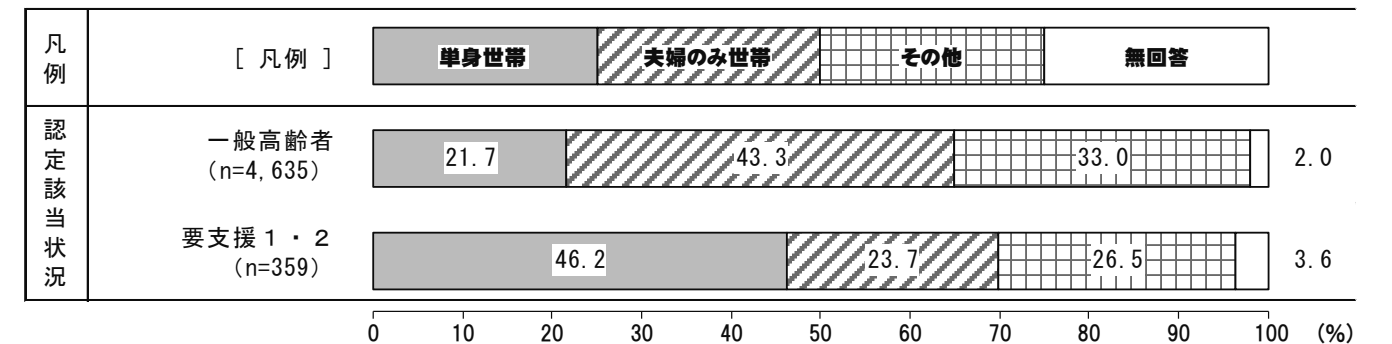
※ 調査結果に表記している「n」は「number」の略で、アンケートの回答者数を意味します。

※ 本文および図表の数字に関しては、すべて小数点第2位以下を四捨五入し、小数点第1位までを表記しています。

● 調査結果

1 世帯構成について

世帯構成について、「単身世帯」(1人暮らし)と回答した割合は、一般高齢者が21.7%、要支援1・2が46.2%となっており、要支援者の約半数が1人暮らしとなっています。また、「夫婦のみ世帯」と回答した割合は、一般高齢者が43.3%、要支援1・2が23.7%となっています。



2 介護・介助について

介護・介助について、普段の生活でどなたかの介護・介助が「必要な方」(「何らかの介護・介助は必要だが、現在は受けていない」および「現在、何らかの介護を受けている」を合計した割合)は全体の12.1%となっています。介護・介助が必要になった主な原因としては、「高齢による衰弱」が最も多く、次いで、男性は「脳卒中(脳出血・脳梗塞等)」、女性は「関節の病気(リウマチ等)」が多くなっています。

